

だんじり会館のあり方等検討委員会 議事概要

審議会名 第1回だんじり会館のあり方等検討委員会
日時 2024（令和6）年9月20日（金）10:00~11:50
会場 伊賀市役所本庁舎 会議室 501
出席者 【委員】
小林慶太郎委員長 福田良彦副委員長 後藤渡委員 中村晶宣委員
菊野善久委員 重藤邦子委員
【伊賀市】
産業振興部長 堀川敬二
観光戦略課長 山田靖子 同課主幹兼誘客推進係長 辻本康文
同課主幹兼事業係長 川合理恵
欠席者 【委員】
山口真由子委員
【伊賀市】
産業振興部次長 福山朋宏
傍聴者数 0人

.....

- 1 委嘱状の交付・委員紹介
岡本市長より出席委員6名に委嘱状交付、各委員から座席順に自己紹介
- 2 市長あいさつ
- 3 事務局紹介
- 4 だんじり会館のあり方等検討委員会の設置について
事務局より説明 資料1
- 5 委員長及び副委員長の選任
委員の互選により、委員長に小林慶太郎委員、副委員長に福田良彦を選出。
- 6 諮問
岡本市長より小林慶太郎委員長に諮問。
- 7 事項
(1) 上野天神祭のダンジリ行事及びだんじり会館の現況

- 事務局より説明 資料 2 (1~13 頁)・上野天神祭パンフレット・だんじり会館リーフレット
- 中村委員より上野文化美術保存会の取組紹介、事務局の説明内容への補足
 - ・ だんじり会館が開館し、初めて会館にだんじりを搬入した際、ダンジリ行事の冊子を初めて作った町の長老が言った言葉として、だんじり町から市にお願いして作った施設だけれど、1 年中だんじりを飾っておくなんて意味がない。祭りで 1 年に 1 回見られることに価値があるということを伝えられたことが記憶に残っている。
 - ・ だんじり町側が陳情して設立されたとはいえ、町では前々から会館でのだんじりや幕の保管状態に対して、温湿度や陳列方法にネガティブな意見が多かった。
 - ・ だんじり会館は、建物の老朽化やだんじりの保管状態について危惧すべき点はあるが、コロナで何もできなかった時でも、半年毎の入れ替えにだんじり町から異論はなかった。「三密」が問題になっていた時期だったが、町の人々はなんやかんや言っても協力するところがある。祭りの主催側の立場からすると、昨年から開催に至り、祭りへのモチベーションの維持に寄与している施設かと思う。コロナ禍でそういう取組をやっていない地域では、祭りが復活しても事故を起こしてしまったり、昔の姿を取り戻せていない所もある。
 - ・ 現在会館では一部が忍者衣装の着替え場所になっている。
 - ・ 祭りの運営に関しては、2019 年以前の人出に戻すことを目指し努力している。
 - ・ だんじりに相当な傷みは出ている。

(2) 意見交換

(後藤委員) 「文化か観光か？」という議論は他地域でも起っている。「地域住民にとってのだんじり会館」と「観光客にとってのだんじり会館」というものは、最初は分けて考えているが、ゆくゆくは重なっていく要素がある。富山県高岡市御車山会館は文化振興に資するため、小学校の自由研究シートを配布し、まずは地元の人に来館してもらうための取組をしている。

(菊野委員) 35 年の月日を経て、一つの施設が同じ体制、同じ仕組みで続けるのは難しいことかと思う。周りの環境、社会情勢、価値観が変化している中で、変わっていくことは当然である。

会館は、だんじりの展示・上映といった側面だけでなく、観光売店としての機能も有しており、観光協会の事務所としても活用している。観光協会が指定管理者として健全な維持管理をするための方策として忍者衣装の貸し出しを行っているが、現在の使い方が悪いということではなく、空きスペースの活用としては肯定的である。

収益面についてはコロナ前から指定管理料だけでは赤字の施設であり、

観光協会が伊賀流忍者博物館の利益で補填するという図式がずっと続いてきた。観光協会はコロナ中は赤字であったが、コロナ後の最近は回復気味である。施設の将来展望を考えると、いかに健全を担保し、資金面の継続性も考慮していく必要がある。

(重藤委員) 会館に訪れたのは1回あるかどうか。昔の記憶だが会館は暗くて怖いイメージ。保存のために明るく出来ないという話もあるが、お囃子の参加者が減っていると聞いているので、地域の子供たちに天神祭やダンジリ行事の素晴らしさを知ってもらい体験もできるようにして、将来祭りを担う子供たちの育成に活用できればと思う。自分が他地域の会館を見に行っても「へえ〜」って思うだけであるように、祭りを実際にやっている地域の人とそれ以外の地域の人との熱量に温度差がある。伊賀においても旧上野市だけでなく郡部の子供たちもダンジリ行事を知る場所になるとよいと思う。地元に住んでいる者としては観光活用としての側面は難しい印象を感じている。

(小林委員長) 子供たちに体験してもらふ施設であると良い。さらに郡部を含めた子供たちに活用される施設であると良いという意見でした。

(福田副委員長) だんじり会館の開館当時、県教委で文化財保護の業務に従事していた。当時、お祭り法案(略称)ができて全国各地で祭りを常設的に見せる施設が建てられた。文化財保護の観点から、常設展示は温度・湿度の面でだんじりや幕にとっては決して良いものではない。重要文化財の基準であれば100日を超さないという規定がある中で、観光に振れることで重要なものが劣化し失われることを心配していた。一方で、祭りは地域にとっても大事なものであり、それを広く知ってもらふということも大事である。両方の側面でどのようにバランスを取るかということは、当時でも議論がなされてきたし悩みもあったが、(中村委員の話聞いて)地域においても同様の(常設展示に否定的な)思いがあったという事は新たに知った。

2つ目に、長期的な視点について。35年前は会館の目の前に市役所、中心市街地には大きなスーパーもあり町が賑わっていたが、市役所が移転し、旧庁舎が図書館に生まれ変わろうとしている。さらに同時並行で美術博物館構想も旧桃青中学校跡地へ建てる動きをしていることを勘案すると、会館の持つ意味もこれらに連動していくことで、町にとって好循環になると思う。そのような環境変化の中で、長期的な視点から地域にとっていい点、市外の来訪者にとっていい点を総合的に考えていくことが大切である。

3つ目は、エコミュージアムという考え方(市民が中心になって地域の

文化を自らが多くの人に広めていくという活動)がある。上野商工会議所による伊賀学検定やいがぶらの体験など市内で様々なことが行われているが、美術博物館構想の議論の中でも何を大切にするかということで、一つは芭蕉の故郷としてしっかりやること。もう一つは「次世代の子供たちに地域を知り愛着をもってもらう」という取組がこれまで欠けていたので、子供たちに美術博物館を訪れてもらいそれに取り組んでいくということも大切だと議論をしている。それに加えて、まちづくりの観点で、美術博物館が担う役割などもあると思うし、それを調整できる学芸員等の人材が必要と感じる。それらを考えていくためにもちょうど良い時期が来ていると思うので、課題は多いが議論を深めていきたい。

(3) だんじり会館のあり方等の検討の方向性

- 事務局より説明 資料2(14~15頁)
- (小林委員長) 事務局からは建物の管理のあり方や手法として、現在は指定管理者である観光協会に運営してもらっているが、実際は赤字経営であるという話があった。

ここまでの委員の皆さんの意見として、観光協会の立場としては今のままでは経営面で厳しいが、とは言え、観光協会の事務局が会館内にあるので、そこも含めて会館をどうするかを検討しなければいけない。さらには、35年が経ち建物が老朽化しているので、いずれ建て替えるのか、それとも施設をたたむのかについても検討しなければいけない。もしそうなった時に、文化財の保護や祭り町のモチベーション維持につながっていたという会館の機能をどのように継承していくのかという検討も必要になってくる。一方で、祭り町だけの施設でよいのかというと、地域の視点といったときに、祭り町だけという地域の視点と伊賀市全体という地域の視点で、旧郡部の子供たちにとって役に立つ施設になっているのかということも考えていかなければいけない。さらには、会館のある場所の周辺環境が変わってきていることや、これから美術博物館や図書館が会館の近くに新たに整備されようとしている中であの場所がどのように活かされていくのか、周辺施設との連動性も考えていかなければならないという意見もあった。

事務局の説明や他の委員の意見も踏まえて、さらに意見を伺いたい。

➤ 意見交換

- (中村委員) 長浜市の曳山祭では、だんじりの前に舞台があり子供歌舞伎を行っている。少し前に曳山祭を見学に行ったところ、曳山博物館の中はだんじりの修理場や子供歌舞伎の練習場になっていると聞いた。人形より人間の動きがある祭りの方が面白い。可能であれば、長浜曳山博物館に行って状況を把握したい。京都は祭が終わったら山鉦を解体してしまうが、お囃子の

稽古はやっている。上野天神祭にとって祇園祭は憧れの存在であって、長浜・大津は伊賀上野と類似するお囃子の文化として残っている。北陸地方は高岡・伏木・城端・魚津などの良いお祭りが残っている印象がある。長浜の曳山博物館はどんな運営をしているかぜひ事務局で調べてもらいたい。他にも各地の事例を参考にしたい。

(小林委員長) 中村委員からは、各地域の会館の運営方法や取組等の事例に学んでみてはどうかという意見であった。

(福田副委員長) 長浜市は修理に熱心に取り組んでいるという印象。会館は修理センターという重要な意義を持っている。全国に同じような会館があるため、ヒアリング等も今後研究されたい。

(菊野委員) まちづくりの観点から、うえのまちまちづくり協議会の取組みを紹介させていただく。現在、協議会の一番のテーマは旧庁舎の改修と忍者体験施設がホットな話題であるが、それらの施設ができたのち、忍者回廊が形成できるのか、回遊性の実現されるのかは懸案事項である。美術博物館とだんじり会館が隣接しており、さらに新しい図書館が完成すれば、現在の図書館も空き施設になってくる。各施設が情報共有をしながら、地域と観光の両面での回遊性も議論したい。

観光協会のオフィスや売店は移転の可能性もあるので、空きスペースになったときの活用も考えられたい。さらに、文化か観光かという側面については一緒にやっていかなければこの町の将来は無いと思う。類似例として芭蕉さんもあるが、文化に軸足を置くのか、今後は観光も含めて活用していくかを検討しなければいけない。だんじり会館の今後を検討することは、まち全体の今後を左右する検討をすることであるという認識を持ち、委員の皆様から意見をいただきたい。

(小林委員長) だんじり会館のあり方検討委員会だが、だんじり会館単体で考えるのではなく、場所や建屋などまち全体の中でどのように位置づいていくかということも含め、少し視野を広げて検討していくべきという重要なご指摘である。観光と文化は一緒に取り組むべきという意見もあるが、一方で文化財を棄損しないかたちでの観光のあり方を議論すべきという意見もあります。そのあたりはいかがか。

(後藤委員) 「人・まち・歴史」があって、その上に文化があり、さらにその上に観光が成り立っているという視点では、地域の方々のヤル気と歴史を疎かにした観光は絶対に続かない。

一方で少し視点は違うが、インバウンドがリピートしないエリアの共通点は、地域の人々がやってきている伝統を無視した開発や観光を作っている点である。「フィロソフィーとヒストリー」とよく言って

いるが、その地域の歴史があり、それを語れる語り部がいて、その上に成り立っていくのが観光であると考えてるので、その順番を追って話をしてく流れが重要である。

常滑市の事例を紹介すると、陶磁器会館は住民のランドマーク的な位置づけになっている。体験が沢山出来て、色々な沢山の物を購入して、観光もできるというよりも、地域住民にとって陶磁器会館は「陶磁器のまち＝常滑」という一つのランドマークとしながら、人の回遊につなげていっている。さらに付近にある「陶の森資料館」を中心にまち歩きを楽しんでもらう仕組みを作っていくことで町の中での連携が進んでいき、結果的に人が回遊することで、地域の人によって認知されるというかたちが形成されている点は、学ぶところが多い。

(重藤委員) 委員会に出席することで知ることが多く、今、だんじり会館に行ってみたい気持ちになった。知ることをきっかけに、足を運びたくなる人もいるだろうと実感した。上野以外の地域の人にもだんじり会館の存在や上野天神祭を知る機会をつくり、どんな細工が施されているかを知り、それを市の自慢として外部の人に伝えていく流れが理想である。現時点では自分からだんじり会館を勧めたことはなかったので、市民全体がぜひそういう風潮になれば良いと思う。気になるのは、他地域の人にとって、会館は祭り関係者だけの物という認識にならないための工夫が必要と思われる。上野の旧町だけのことなく、伊賀市全体の施設であるという認識を持つことが大切である。

(小林委員長) 市の施設だと特定の一部のエリアの住民だけの施設という認識でなく、市域全体としてのメリットや役割がある施設になっていくべきという考え方が必要だという意見である。

(中村委員) だんじりや鬼はその町だけのものと考えていない。祭り町の13町に対して「自分の町の物だと思ふな」と言っている。昔は財力もあったし、長老や団塊の世代以上に自分の町のものだと思っている人は多いが、コロナが収束し祭りが復活してから、皆に（特に若い人に）対して、「だんじり・鬼は伊賀市のものと考えよ」と指導している。修理費を出してもらうことも見込んでという理由もある。

(菊野委員) だんじり会館の誇れるものは映像である。1、2回はリニューアルしており、上野の町を知っていただくツールとして分かりやすい構成になっているので、もっと活用できないものかと思う。祭りだけでなく、上野の町そのものを知るという視点で委員の皆さんもご覧いただき、次回の委員会で感想を伺いたい。

(小林委員長) 市民の方も含めて、だんじり会館の映像や展示内容などを知らないと

いうのはもったいない。情報発信のあり方という視点も今後委員会の検討テーマとしていく必要があるかもしれない。

(4) その他 (今後のスケジュール)

➤ 事務局より説明 資料2 (15~16 頁)

➤ 今後のスケジュールに係る質疑

(小林委員長) 委員会の答申は市長に対して行うという認識だが、議員全員協議会に対しても何かする必要があるのか。答申を受けた後に市長の公務として議会に報告が行われるのか、どちらか。

(事務局) 後者である。市長から、委員会から答申書が提出されたことを議員全員協議会に対して報告することを想定している。

➤ 次回の論点整理にあたって、事務局で準備してもらいたい資料

(小林委員長) 他地域の同規模の類似施設における取組事例、機能、運営方法、課題、今後の方向性を参考資料として提示してもらいたい。

(福田副委員長) この委員会は、今回の資料で説明されたように、計画的な大規模修繕の話も踏まえて議論すべきなのか。それとも、財政面は考えずに長期的な視点であるべき姿を明らかにすべきなのか。

(事務局) 大規模修繕については現時点で詳細調査を行っていないので、空調以外の設備の具体的な金額は事務局で把握していないが、相当な金額が必要になるだろうと考えている。財政的負担は今後の伊賀市の大きな課題であるため、財政計画も見据えた上で、委員会で検討をお願いしたい。

(小林委員長) この委員会で財政シミュレーションをすることは難しいが、そういうことも考慮していかなければならない。他の施設ではどれくらい修繕費がかかり、今後の見通しをどのように考えているかといった情報も資料として用意してもらいたい。

(中村委員) ひとまず金目のことは無視して検討を進めてもいいと思う。行政側としてはそうできないことも分かっている。回を重ねるごとに話も変わってくるだろうから、少なくとも3回目までは棚上げをして考えたい。

(小林委員長) 理想と現実の2段階で議論をしていく必要があると思われる。本当はどうあるべきかを考えた上で、次の段階として、全部を実現できないならどこを残せばよいかという議論になる。例えば、建屋は維持できないけれど、機能は別のところで維持できるだろうという議論はできる。

(福田副委員長) 最初は高邁な部分で議論していき、途中でそういった局面になった時点で、さらに議論を重ねていくようにしていくのが良い。

(中村委員) 10月はぜひ祭りを見に来てもらいたい。

➤ 次回以降の会議の日程

- ・ 第3回：12月23日（月）午後
- ・ 第4回：1月27日（月）午後
- ・ 第5回：2月25日（火）午後

（小林委員長） 山口委員のご都合聞かれて調整されたい。

（事務局） 承知した。

（小林委員長） 決まり次第、早めにご連絡されたい。

8 現地視察（午後）

委員5名で、だんじり会館の見学を実施。

以上